



理学部・教室図書室  
宇宙物理学図書室

北側に面した暗いわずか90m<sup>2</sup>の開架式図書室ではあるが、その内容は比較的充実したものである、と自負している。事実、5,400冊、購入雑誌数約130種、その他ゼロックスを備えて利用者の便宜をはかっている。

わずか二講座で年間250万円という大きな予算で運営しているため、研究面へのしわよせは大きい。この分野の研究機関が日本で極めて少なく、単に京大の文献センターとしてのみならず、日本のセンターとしても重要な存在であり、関係書は細大もろさず購入しなければならないというためである。宇宙時代に入り、急速に関係出版点数が増え、昨年より一部の物理関係雑誌の購入を中止せざるを得なくなったのは残念である。星表や星図、それに美しい写真星図などが沢山そろっている。

これまで講座ごとに分れていた図書室も、一昨年研究者の運動により合体され、併せて図書委員会が発足し、購入、自主分類などを行なっているが、未だ十分その自主性を発揮しているとはいいがたい。貸出規則はあるが、利用者が小人数のためもあり、あまり厳しくしていない。花山天文台図書室との密接な連絡をつけ、より立派な図書室にして行くことが、今後の課題であろう。

あともがき 万国博覧会も開幕し、春の足音も高まろうとしています。

さて、京都大学の図書館問題を検討するために『商議会専門委員会』につづいて、この2月半ばには、全学の図書館職員を糾合しての『大学図書館問題改革懇談会』がスタートしました。直接業務にたずさわっているものとしての真剣な検討が期待されます。

この『懇談会』の審議内容も逐次紙面に報じていくつもりですが、どうか互いに意思の疏通をよくはかり、両者あいまって改革の実を着実にあげようとのぞみたいと思います。

### 生物物理学図書室

生物物理学教室の図書室は教室の5階にある。発足は2年前の昭和43年である。

本教室はその学問的性格上、物理学教室・化学教室・動物学教室・植物学教室との関連が深いので、雑誌の購入にあたっては、これら関係教室との調整の上当教室関係の分野を充たそうとしている。なお、学部学生の方々のためには生物物理関係の入門的な書物を将来完備しようと努力している。

年間予算は約130万円、購入雑誌数は、洋書18種、和書9種、蔵書数は約500冊である。

職員は1名で、図書室の運営に関することは図書委員会で審議され実行されている。図書利用に関しては、理学部教職員、研究員、学生を問わず閲覧、貸出しの便をうけることのできるのが特徴である。書庫は開架式で自由に図書を検索することができる。図書カードの作成はすべて中央図書館に依頼し、分類は当教室独自の方式をとっている。複写その他の設備は現在備えていない。



生物物理学図書室